

(2:00)

仕舞

歌

占

番組

(シテ) 今井 克紀

(地謡)

徳田 宣幸
宇高 徳成
豊嶋 晃嗣
宇高 竜成
山田 伊純

狂言

魚説経

(出家) 茂山 千作

(旦那) 茂山千三郎

(後見) 山下 守之

休憩

能

巻絹

(シテ) 今井 清隆

(シテツレ) 今井 克紀

(ワキ) 有松 遼一
(アイ狂言) 丸石やすし

(太鼓) 前川 光範
(大鼓) 河村 大

(小鼓) 曾和 鼓堂
(笛) 左鴻 泰弘

(後見) 金剛 永謹

廣田 幸稔
豊嶋 幸洋
山田 伊純

(地謡)

豊田 正勝 重本 昌也
宇高 徳成 種田 道一
宇高 竜成 松野 恭憲
上田 英和 金剛 龍謹

(4:00)

(3:00前)

主催 今井後援会 後援 京都新聞社

仕舞 歌占 (うたうら) クセ

仕舞とは能の一部分を地謡のみをバックに紋付ハカマ姿にて勤めるもので、神罰により一度地獄に落ちたシテ中年の男神子が再び蘇り、見てきた地獄の有様を次々と謡い舞います。本来、父子の再会が主題の能ですが、この地獄のクセ舞も注目される部分です。(所要約5分)

能 巻絹 (まきぎぬ)

天皇の霊夢に、三熊野に千足の巻絹を納めよとのお告げがあり、全国から奉納の巻絹が集められます。しかし都からの巻絹を運ぶ使者(ツレ)は道中、音無ノ天神に立ち寄り、咲き乱れた冬梅に惹かれて歌を詠んだりする内に、三熊野到着に遅参致します。怒った勅使(ワキ)は彼の罪を責め、縛り上げるのです。すると一人の巫女(シテ)が幕内よりの「呼びかけ」で登場。実はこの巫女には音無の天神が乗り移っていて、男は詠んだ歌を天神に手向けるなどしていた為に遅参した旨を説明し、縄を解くように命ずるのです。

しかし勅使は、かような卑しい男

が歌など詠むはずがないと疑います。すると巫女は男にその歌の上の句を言わせると、自身が下の句をつけて詠み、男の縄を解かせるのです。やがて勅使の要望によりシテは祝詞を奏し神楽を舞う内に、神霊は離れ巫女は本心に戻り終曲となります。

桃山期、宝生宗家に男子なく金剛家次男勝政が宝生家を継ぐに当り、土産に「巻絹」の能を持参。以降金剛家には常の「巻絹」は絶え、習い物の「巻絹」のみが残った為、今も大切に扱います。他流の「巻絹」や「三輪」「葛城」の中で舞われる「神楽」では、途中で御幣を扇に持ち替えますが、金剛の「巻絹」では最後まで御幣を持って「総神楽」に舞うのが特徴です。また「巻絹」の謡い文にある「金剛唯一」から、二十一代金剛宗家は「金剛右近氏也唯一」と名乗りました。

金剛の「巻絹」、金春の「三輪」、観世の「龍田」、宝生の「室君」が各流儀のカグラの能に対する思いと主張があるようです。

最後、物狂いの巫女が数珠を揉み袖を振り、異常な興奮状態から突然平静に戻るといふ鮮やかな終わりの方もこの曲の面白さでしょう。

使用面 シテ 増女(ぞうおんな)